

日本語要約

バングラデシュにおけるコレラ流行はエルニーニョ現象（太平洋における大気海洋相互作用現象）と関連があることが報告されている。1999年に発見されたインド洋の大気海洋相互作用現象であるインド洋ダイポールモード現象（IOD）が、ベンガル湾周辺の気象やインドモンスーンに影響を及ぼすことが近年明らかになっており、バングラデシュにおけるコレラ流行との関連の可能性が指摘されているが、疫学的関連の検討はなされていない。本論文は同国における過去15年間の月別コレラ患者数とIODが関連あるか時系列解析法を用いて検討した。その結果、過去3か月間のダイポールモード指標（DMI）が 0.1°C 増加すると首都ダッカにおけるコレラ患者数が2.6%（95%信頼区間：0.0-5.2）増加し、過去4-7か月のDMIが 0.1°C 減少すると患者数が2.4%（95%信頼区間：0.0-5.0）増加すると推定された。また過去3か月間のベンガル湾の平均海面水温とコレラ患者数は正の関連があることが明らかとなった。結論として、バングラデシュのコレラ患者数は正および負のIODにより異なるタイムラグで影響を受けることが明らかとなった。